

令和4年度 静岡市食教育推進委員会 会議録

- 1 日 時 令和5年1月31日(火) 15時～16時30分
- 2 場 所 静岡市役所清水庁舎3階302会議室(静岡市清水区旭町6-8)
- 3 出席者
 - 【委員】

静岡市教育長	赤堀文宣委員長
静岡県立大学教授	桑野稔子副委員長
静岡県立大学短期大学部非常勤講師	末永美雪委員
静岡市PTA連絡協議会副会長	渡邊彰委員
静岡市校長会静岡市立田町小学校長	榎本義男委員
教育委員会事務局児童生徒支援課長	石川裕委員
教育委員会事務局学校給食課長	朝比奈直樹委員
 - 【欠席者】
静岡市校長会静岡市立観山中学校校長 小川富男委員
 - 【事務局】
学校給食課 小田係長、学校給食課 草谷副主幹、学校給食課 石田栄養士
学校給食課 中山主事
- 4 傍聴者 なし
- 5 議事
 - (1) 挨拶
 - (2) 報告事項 「静岡市の学校給食について(食育の取組み)」
 - (3) 協議事項
 - ア 第2期静岡市教育委員会食育推進計画の令和4年度の取組みについて
 - (ア) 食育推進状況調査
 - (イ) 保護者アンケート
 - (ウ) 朝食摂取状況調査
 - イ 第3期静岡市教育委員会食育推進計画について

6 会議内容

(1) 教育長挨拶

(2) 報告事項「静岡市の学校給食について（食育の取組）」（事務局説明）

ア 静岡市の学校給食の概要

静岡市の学校給食施設は、複数校の給食を調理する学校給食センターと学校内の給食室で調理する単独調理校があり、1日当たり約5万食の給食を調理し、児童生徒に届けている。

イ 食に関する指導実施例と成果

栄養教諭を中心に給食を食べるだけでなく生きた教材として「食に関する指導」を授業で行い、食育の推進を図っている。「食に関する指導」は、小学1年生の「給食ができるまで」から始まり、食品について、栄養素、栄養バランスなどを指導している。児童生徒からの感想を見ると、「食べる意欲が出た」「その日の給食をよく食べた」など「食に関する指導」が食への関心や興味に繋がっていることが読み取れる。

ウ 情報発信

学校給食の情報は市のウェブページを利用し献立表や給食だより、給食レシピ等を発信している。給食レシピは非常に好評だが、市のウェブページからレシピのページに進むまで時間がかかるなどの意見もいただいていることから、受け取り手が情報を受け取りやすくするために、学校給食専用のウェブサイトを作成中。新ウェブサイトでは見やすく、検索しやすいページ作りを目指し、給食施設を動画で説明することによって学校給食の安全性を伝え、給食で使用する食品や特産品の生産に関わる人々を紹介することによって地元食材への興味関心を高め、食べ物や栄養素に関する情報発信を行い、食育の推進を図りたいと考えている。また、学校現場でのタブレットの使用に合わせ、授業の中でウェブサイトを活用できるよう内容を工夫したい。

エ 献立を使用した取組

(ア) 地場産物を活用した献立

「ふるさと給食」では、毎月1回以上地元の食材や地元の郷土料理を提供し、地産地消を推進している。さらに、令和元年度からは「わくわく給食」を行っている。

(イ) 国際理解・多文化理解の献立

「海外料理」としてはオリンピック等の国際競技大会や国際交流イベントに合わせて海外料理を提供し、多様な食文化を体験できる献立を実施した。また、「スマイル給食」では食物アレルギーや文化信条により普段給食を食べる事ができない児童生徒も一緒に給食を食べることができるよう、食物アレルギーの原因物質28品目を除いた給食を提供し、多様な食文化を知る機会とした。

(ウ) 食べ物の旬や伝統的な食文化や郷土料理を意識した献立

年間を通して食べ物の旬を意識し、伝統的な食文化や静岡の地元ならではの料理、各地の郷土料理を提供し、献立を活用した食育の推進を図っている。

(エ) わくわく給食について

給食がおいしく楽しい時間になるように静岡市自慢のブランド食品を使用した特別な給食を年6回提供している。令和2年度は新型コロナウイルスの影響で実施を取りやめたため、今年度が3回目の実施となる。今までは県内産の食材を主に使用したが、今年度は地元の食材を知り、おいしく食べてもらう事を目標に静岡市内産食材にこだわった。また、新型コロナウイルスの影響で児童生徒が「食の体験」の機会や給食が楽しい時間と感知ることが減少しているという現状を踏まえ、静岡市内産の食材を使用し、食に関心を持ってもらえるような「体験」できる献立を提供した。第1回目の7月には食教育推進委員会発案で児童生徒に公募して決定した、学校給食キャラクター「しょっかんくん」をプリントしたツナコロッケをパンで「挟んで」食べるツナコロッケバーガー、9月は静岡市内産のしらすと卵などの具材を「のせて」楽しむ井やちらし寿司、10月は静岡市内産の豚肉を「のせて」食べる豚井、11月は1日のお茶の日に合わせて、お茶と共に和食を体験する給食、12月には葵区水見色で育った「するが牛」を使用し、「混ぜて」のりで「巻いて」食べるするが牛ののり巻き、1月には清水区三保の養殖センターで育った「三保サーモン」のフライを「挟んで」食べるサーモンバーガーと静岡市内産茶葉を使用したプリンを提供した。

情報発信として「わくわく給食」の提供に合わせて「しょっかんくん」の漫画やイラストを使用し、給食に使用される地元の食材についてのポスター「わくわく給食ニュース」や食材を生産されている方の取組に焦点をあてた「しょっかんくんニュース」を作成し全小中学校へ配布。11月の和食給食提供時には料理研究家を講師に招き、「和食」の食に関する授業を実施した。12月にはするが牛生産者の取組についてインタビュー動画を作成。生産者の取組を知った児童生徒からは「給食に出てくる肉なども大切に育てられていることが分かった。命の尊さがわかったためこれからは残さず食べたい」等の感想を聞くことが出来た。1月は三保サーモン養殖場の職員による出前授業等、情報発信をすることで地元食材への理解が深まった。また、今年度はメディアへの情報発信も積極的に行い、ケーブルテレビ局や新聞社など多くの報道機関の方から取り上げていただき、児童生徒だけでなく地域の方に対しても「わくわく給食」を通して食育の推進に繋げることができたと思う。

○赤堀委員長

今年度、特にわくわく給食は情報発信を積極的にしていただき、メディアへの露出も多かったと思います。御意見等ありましたらお願いします。

○石川委員

「わくわく給食」の生産者の取組への児童生徒の感想は、書いてもらった後どのような取り扱いをしましたか。

○事務局

今回紹介したコメントは、給食センターで集めた感想の一つを紹介させていただきました。学校からの給食に関する感想は、給食センターから児童生徒に返答しています。

○石川委員

食について学んだ児童生徒が書いてくれた感想を生産者の方に伝える事が出来ると生産者の意欲にも繋がり、コロナ禍で人と関わる事や連携することが難しい中、より良い取組になると思います。

○赤堀委員長

生産者の取組の紹介や繋がりについては、ねらいとしていたと思いますので、感想等を生産者にも伝えることをお願いします。

○渡邊委員

児童間で体格差などがありますが、給食の量としても差があるものですか。

○事務局

給食の提供量としては栄養計算をして必要な栄養が摂取できるように献立を作成しています。提供する給食を全て食べて必要な量という考えではありますが、児童生徒個々の体格差や、食べる量もそれぞれなので、学級内で個別に量を調整する等の対応をいただいています。

○朝比奈委員

情報発信を今年度は強化してきました。まだまだ不足している部分もあると思います。学校給食課では、学校給食専用のウェブサイトを開設し、いろいろなところに発信し、生産者の方とも相互でキャッチボールできるようになればと考えています。新型コロナウイルスの影響によって対面での食の体験などが減っている中、全国的にも珍しい学校給食専用ウェブサイトを通じ強みとして情報発信を強化していきたいと思っています。

○赤堀委員長

学校給食専用ウェブサイトはいつ頃完成予定で、公開はいつからですか。

○朝比奈委員

2月末に開設を予定しています。

○末永委員

12月のわくわく給食の献立名が静岡市産ブランド牛を混ぜて巻いて食べよう！（韓国風のり巻き）となっていますが、どのように韓国風にしたのか、のりは韓国のりを使用したのか教えてください。

○事務局

のりは韓国のりではなく通常の手巻き寿司用ののりを使用しました。学校によっては牛をビビンバにし、さらにそれを手巻にして食べ、韓国料理のキンパをイメージした献立を提供した学校もありましたので、韓国風のり巻きとして今回は紹介させていただきました。

(2) 協議

ア 第2期静岡市教育委員会食育推進計画の令和4年度取組について(事務局説明)

食育推進計画の中では小中学校の取組として、食に関する指導の充実を最終目標としている。評価指標では児童生徒への「食に関する指導」の成果が感じられると評価する学校の割合を95%としている。

今年度の小中学校全校へのアンケート結果では「食に関する指導」の成果が感じられると評価した学校が全体で97%だった。徐々に数値は上がっており、「食に関する指導」の成果が学校にも十分伝わっていると考えられる。

保護者・地域への取組では、最終目標を家庭での食育の推進としている。評価指標では、家庭での食育が大切だと思う保護者の割合が80%としている。今年度は小学校5校、中学校3校を抽出し、約2500人の保護者へのアンケート結果から、家庭での食育が大切だと思う保護者の割合が全体で昨年度に引き続き99%という結果になった。この結果から食育の大切さを各家庭が認識しているという事がわかる。

食教育推進委員会の取組では、学校や家庭への指導や支援を最終目標としている。評価指標としては、食育推進のために役立っていると80%以上の学校が評価する取組の数が3項目以上ある事を目標としている。11の取組が選択肢にはあるが、新型コロナウイルスの影響等により実施していない取組もあるため8つの取組を抜粋し、評価していただき、目標としている80%以上の学校が役立っていると評価する取組は「栄養教諭・栄養士による指導」で、全体の96%から評価されたが、80%以上の取組はこの1項目だけであった。ここ数年の結果を見ても3つの項目で評価をいただく事が出来ない現状が続いている。そんな中で「情報発信」の項目では、食育推進のために役立っていると評価される割合が昨年度の68%という結果から今

年度は75%に上昇していた。「わくわく給食」の際の情報発信等による結果によるものだと考えられる。

今後は、学校給食専用ウェブサイトを開設し、ウェブサイトを通じて児童生徒1人1人が使用するタブレット端末で食の情報を受け取る事ができるため、「情報発信」が強化されると考えている。

全体としては、各家庭で食育の大切さ・関心が高まっており、学校においても栄養教諭・栄養士による「食に関する指導」が定着して、食育推進に役立っているという事が分かる。ここ数年では社会環境やライフスタイルの変化などもあるため、そこに合わせたウェブサイト等を活用した食の情報発信を進め、食育を推進していきたい。

① 日々の給食の時間や献立を活用した食育の推進（給食を生きた教材として活用）

食に関する指導を各学校で各学年1回以上実施している。9月時点では25校実施済。3月の年度末には全校で実施となるように進めていただいている。

② 情報発信（献立表・給食だより・ウェブサイト）

献立表を作成しウェブサイトに掲載し、各家庭の方が見られるようになっている。6月の食育月間には給食だよりを作成し全児童生徒に配布、ウェブサイトに掲載を行っている。また、「わくわく給食」実施日に合わせて食育啓発資料を作成し全校への配付や実際に児童生徒の給食時間の様子を紹介する「食育ニュース」を作成し、ウェブサイト上に掲載を行っている。

③ 献立コンクール

家庭科の授業時間において児童生徒が学校給食の献立を考え、作られた献立の中から選ばれたものを実際の給食で提供する取組。新型コロナウイルスの影響で調理実習等が出来ず実施校数が昨年度6校にまで減少していたが、料理カードを組み合わせる形で献立作成を行うなど、栄養教諭・栄養士の工夫により今年度は14校の実施となった。

④ 親子料理教室

新型コロナウイルス感染防止のため実施なし。参加枠が少なく、実習室がない施設もあること等から別の事業として見直しを検討している。

⑤ 年間献立テーマの活用「やってみよう 体に良い 食べ方 選び方」

給食を通して栄養バランスのとれた食事を選択できるようにするため、体の調子を整える野菜や果物を多く使用し、減塩を意識した献立の提供を行った。

⑥ 「早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進

毎年5校を実践推進校とし、「早寝・早起き・朝ごはん」の取組を行っている。栄養士による「朝食の大切さ」についての食に関する指導や、外部講師による出前講座等を行った。朝食実施状況調査によると、「毎日朝食を食べている」と回答した児童生徒は児童98%、生徒95%という高い数値になっている。実践推薦校は、今年度ですべての学校が対象となったため終了するが今後も継続して「早寝・早起き・朝ごはん」についての取組は行っていく。

⑦ 食農体験

新型コロナウイルスの関係で実施校数が減少することが考えられたが、令和4年度では小学校41校、中学校11校の計52校(全校の41%)で実施と例年通りの実施数であった。

⑧ 子どもが作る「弁当の日」

⑨ 給食参観

⑩ 学校応援団の活用

これら3つの取組は、新型コロナウイルスの感染症対策として開催中止の学校が多く、実施校数は少数という結果となった。

⑪ 重点目標に特化した集団指導の実施(食育講習会・健康教室)

食育講習会では教職員を対象に実践報告と講演を行っている。新型コロナウイルスの関係で令和2年度、令和3年度は書面開催であったが、今年度は対面で実施することが出来た。実施アンケート結果では、「参考になった」と答えた割合が91%という結果となった。来年度も対面での実施を予定している。

健康教室は児童生徒支援課が主体となり、肥満傾向の児童と保護者を対象に個別での医療相談・栄養相談を行う事業。第1回の出席は79組、第2回の出席は25組と多くの方に出席いただいた。保護者からは、「個別の相談が出来る機会は貴重であるため、とても参考になった」という感想も届いた。

⑫ 学校給食レシピの作成

生徒、保護者、市民からレシピのリクエストをいただき、その中から学校給食で提供している料理のレシピを公開している。現在静岡市のウェブサイトにはレシピを68個掲載している。今後は新しく開設される学校給食専用のウェブサイトにより見やすくなった状態で掲載予定。

⑬ 地場産物を活用した「静岡ならではの献立」の提供

「ふるさと給食」や「わくわく給食」を通じて地産地消、地場産物の活用をしている。令和4年度の地場産物使用率は44.2%。

⑭ 食育啓発資料の作成・活用

新1年生とその保護者向けリーフレット「学校給食が始まります」を作成。今年度は文字数を減らし画像を増やすなどより読みやすくなるようにレイアウトの変更を行い、給食の栄養価、給食提供の流れ等の必要な情報をまとめた。詳細版はウェブサイトに掲載している。

○榎本委員

食育推進に役立っている取組み数の目標が未達成であったという状況は新型コロナウイルス等の影響もあり、実施が出来ない事業等もあるため仕方がないことだと思う。また、栄養教諭・栄養士による「食に関する指導」も当たり前になり、学校の日常の一部となってきたと考えられる。情報発信の面では児童生徒1人に対して1台クロームブック(タブレット)が配付されており、家庭にも持ち帰っている。そのため家で、親子でクロームブック(タブレット)を見る事も可能なので、ウェブサイトへのアクセス方法、発信したい概要などを作成し、配付すれば家庭学習に組み込むことも可能だと思う。保護者に向けた資料も、紙面として配付するよりも二次元コードでアクセスしてスマートフォンで閲覧できるようにする等、伝えたい情報に合わせて伝達方法を考えていくとより効果的になると思います。

○桑野委員

「早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進として実践推進校の5校はどのような事を行っていますか。朝食摂取率は児童98%、生徒95%と高い数値が出ており、朝食摂取率は高いですが、朝食の内容が栄養バランスのとれた朝食では無いことも考えられます。実践推進校は、栄養バランスのとれた朝食を摂取してもらうための取組なのか、朝食の摂取率を上げるための取組を行っているかわかりますか。

○事務局

実践推進校での取り組みとしては、外部講師を招いて朝食の大切さを伝える事や関連図書を紹介等を行っていると聞いています。バランスのとれた朝食の指導まで行っているか確認していませんが、栄養バランスのとれた朝食について、栄養教諭による「食に関する指導」が必要だと感じました。

○桑野委員

現状として朝食摂取率が高値であるため、学校での指導の目標はバランスのとれた朝食を摂取してもらう事に変化してきています。バランスのとれた朝食を摂取する大切さの指導を今後進めていただきたいと思います。

○朝比奈委員

榎本委員から御意見をいただいたように、学校現場で進んでいる ICT を活用して情報発信を行っていききたいと思います。今年度も新型コロナウイルスの影響により様々な事業が実施出来ない事もあったので、次期計画の中ではそういった面も踏まえてより効果的な事業の展開を考えていききたいと思います。また、桑野委員の御意見の中でもあったように現在の課題に対して達成率の高い取組に関しては、次の展開を考えていききたいと思います。

○石川委員

自らの校長としての経験の中でも、栄養教諭・栄養士が指導を行う事によって、子どもたちの食に向き合う姿勢は変化すると思いますから、栄養教諭・栄養士による指導が食育推進のために役立っていると多くの学校が評価した事に、妥当性があると感じました。また児童生徒支援課が開催した健康教室に参加する中で、栄養士による栄養相談は個別相談であるため、対象者の方が自らの食生活に対して相談が出来る良い機会であると感じました。

イ 各種アンケート調査の結果(事務局)

(ア) 食育推進状況調査結果

食育推進状況調査は静岡市立の小中学校全校を対象に各学校における食育推進状況を把握し、次年度以降の食育推進計画に役立てるために行っている。食に関する指導の全体計画については、「食に関する指導の全体計画の見直し」を全体の 89%の学校が行っているという結果だった。この割合が 100%になるように学校給食課としてはモデル案を示し、丁寧な説明を行っていききたいと思う。「学校給食が始まります」の活用状況では「活用した」と答えた学校が昨年度 67%に対して、今年度は 72%と活用状況が上がっていた。今後も内容を分かりやすく、見やすくしていきたいと考えている。

(イ) 保護者アンケート結果

保護者への食に関する実態調査は、静岡市内抽出校に通う児童生徒の保護者に対して、お子さんの食に関する実態把握を行い、今後の食育事業の改善等に活かすために行っている。アンケートの結果として大きな変動はなかったが「地元静岡の食べ物を知っている」と答えた児童の保護者が令和 2 年度 71%、令和 3 年度 65%、令和

4年度64%と減少している。地元食材の活用、地産地消の取組は「わくわく給食」等で積極的に行っていた上での結果であるため、取組を保護者にも発信し、伝えていく事が今後の課題であると感じた。食習慣に関する項目も年々下降気味であるため、栄養素や栄養バランスについては食に関する指導の中で伝えていきたいと考えている。

(ウ) 朝食摂取状況調査結果

朝食摂取状況調査は、学校における「食育・食に関する指導」の資料を得ることを目的として静岡市立小中学校全児童生徒、朝食の栄養バランスについての調査は小学校5・6年生、中学2年生を対象に行っている。結果として朝食摂取率は児童98%、生徒95%と高い結果が出ているため、朝食を食べるという習慣づけはされていると考えられた。しかし、「朝食にどんな食品を食べましたか。」では、食品を「赤・黄・緑」の3種類の分類にわけた時、3種類の食品を朝食で食べたと答えた割合が全体で43%と半分以下の低い結果であった。この結果から朝食を食べるだけでなく、内容についての情報発信も強化していきたい。また、「朝食を誰と食べましたか」の問に対して、「ひとりで食べた」、「子どもだけで食べた」と答えた割合の合計が3学年の平均で57.8%という結果であった。家庭の事情等もあるが、食事を楽しく家族で一緒にということも伝えていきたい。「1週間のうち、何日くらい家で緑茶を飲みますか」に対しては、3学年の平均で「毎日飲む」と答えた割合が23.1%、ほとんど飲まないと答えた割合が34.7%という結果であった。お茶の主要産地であるため、今後もお茶を使った献立等も継続して提供していきたい。

ウ 第3期静岡市教育委員会食育推進計画について（事務局説明）

平成30年から実施している「第2期静岡市教育委員会食育推進計画」は令和4年度までの5年計画で進めてきた。計画の基になる「第3次静岡市食育推進計画」が新型コロナウイルスの影響により、本来の食に関する実態把握ができないという理由で1年実施期間を延長し、「第4次静岡市食育推進計画」を令和5年度に策定、令和6年度より実施となったため、「第2期静岡市教育委員会食育推進計画」も計画期間を延長し、来年度「第3期静岡市教育委員会食育推進計画」を策定する。そのため、例年食教育推進委員会は年1回の開催であったが次期計画の策定作業に伴い年2回から3回の開催を予定している。また、作業部会も同様に年2、3回の開催を予定している。

○赤堀委員長

食育推進計画の実施期間が1年延長するという説明でした。御理解いただきたいと思えます。

○赤堀委員長

これですべての議事が終了となります。進行を事務局にお返しします。

○事務局

今後とも静岡市教育委員会の食育推進のため、協力をお願いしたい。本日の食教育推進委員会はこれで終了とする。